

◆ 平成 28 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 自然エネルギー利用を普及させる会

19A-04

代表者：代表理事 朝廣 亮

URL :

1. 活動が必要とされた状況

パリ協定が平成 28 年 11 月に正式に発効し、地球温暖化防止の一つとして、自然エネルギーを積極的に活用することとしています。未来を担う子ども達が、自然エネルギーを身近に見て触れるなど、体験をとおして意識を持ってもらうことが重要です。そのため、子ども達が見て触れる啓発道具である、自転車の発電機付車輪を利用した手作り水車や太陽光発電システムをイベントで活用してきましたが、さらなる普及が必要と感じています。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

サイサン環境保全基金で作成した水車や太陽光発電システム、及び作成したパンフレット等を活用し、イベントで自然エネルギーについて啓発を行いました。

・ 出展イベント名と場所、参加人数を下記に表記します。

日時	イベント名	場所	入場者数
5月5日	子供交流体験フェスティバル	代々木公園（新宿区）	5,000
7月30日	打ち水大作戦	さいたま新都心コクーン	150
9月18日	さいたまカーフリーデー	鐘塚公園（大宮区）	80
11月9日	親子交通安全フェスティバル	ファインモータースクール大宮	50

※出展予定をしていた、11月3日の「子育てフェスタ」は、会場工事のため中止となりました。



3. 活動の成果

子ども達ばかりでなく、保護者にも自転車の車輪で作った水車や太陽光発電システム、及び作成した啓発資料により、自然エネルギー利用を身近なものに感じてもらうことができたと思います。

4. 今後に残された課題

- ・ 公共施設や民間施設への常設も視野にいれ、さらに啓発を広げる必要がある。
- ・ 水車や風車の作成や、イベント時の道具運搬に費用がかかる。運営費の確保が課題。
- ・ 自然エネルギーの中でも、風の利用を啓発する必要がある。
- ・ 自然エネルギーで発電量を見える化すると、さらに効果的であり、表示する機器が必要。
- ・ 活動を継続するための、スタッフの増員と協力者が必要。